

成人市中肺炎の診断 - 6

ウイルス性肺炎

● 総監修 ●

長崎大学大学院感染免疫学講座

河野 茂

● 学術指導 ●

長崎大学大学院感染免疫学講座

関 雅文

ウイルス性肺炎

- ◆ウイルス性肺炎は、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、水痘ウイルスなど、様々なウイルスによって引き起こされる肺炎である。
- ◆本項では、代表的な肺炎で迅速診断と特効的な治療が可能な、インフルエンザウイルス肺炎、SARS、高病原性鳥インフルエンザについて見ていく。

【1】インフルエンザウイルス肺炎

○インフルエンザウイルス肺炎の病型

- インフルエンザウイルス肺炎は、インフルエンザに合併する肺炎である。
- その病型は下記の3つがある。

インフルエンザウイルス肺炎の病型

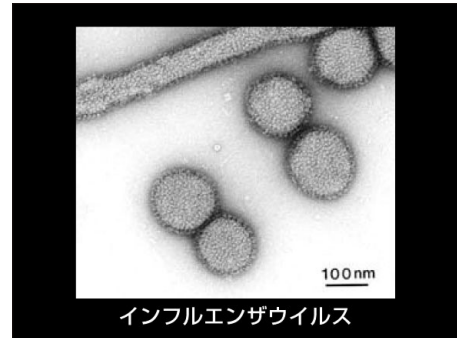
1. インフルエンザウイルスそのものによるウイルス性肺炎
2. インフルエンザ罹患後に発症する細菌性肺炎
(肺炎球菌、インフルエンザ菌、黄色ブドウ球菌など)
3. ウイルス性肺炎と細菌性肺炎の合併
(肺炎球菌、インフルエンザ菌、黄色ブドウ球菌など)

○インフルエンザウイルス肺炎の特徴

頻度：ウイルス性肺炎の確定診断は難しいため、正確な頻度は不明だが、インフルエンザの大流行が見られなくても、成人のインフルエンザウイルス肺炎はきわめて重症になりやすく、注意が必要である。

誘因：肺疾患や特に僧帽弁狭窄症をはじめとする心疾患が誘因と考えられる。妊婦や乳幼児も肺炎発症のハイリスク群に含まれる。

症状：インフルエンザ罹患後の早期（約3日後）に出現する肺炎の症状で、進行性の激しい呼吸困難が特徴である。



○診断

- インフルエンザの確定診断は、抗原検査によって比較的容易に行うことができる。
- 肺炎がインフルエンザウイルスによるものかどうかの決定は、白血球の増加、膿性痰や原因細菌がないなど、臨床的に総合判断する。



○治療

- 抗インフルエンザウイルス薬（オセルタミビル、ザナミビル、アマンタジン）を投与する。
- 病態に応じ、抗菌薬や免疫グロブリンを併用する。
- ただし抗インフルエンザ薬は副作用の可能性もあり、投与には注意も必要である。

【2】 SARS（重症急性呼吸器症候群）

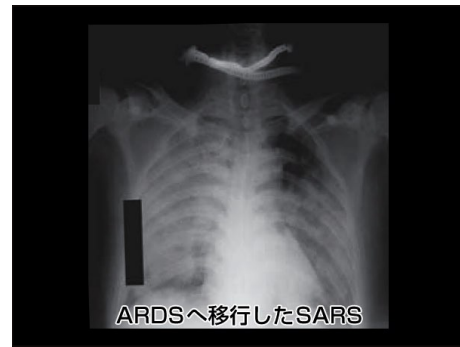
○ SARS ウイルスが関与する肺炎

- 2002年の冬から03年3月にかけて各地に流行が拡散し、未知の新型肺炎として世界を震撼させたが、原因ウイルスは新型コロナウイルスで、SARS コロナウイルスと命名された。
- SARS ウイルスが関与する肺炎には、SARS ウイルスによるウイルス性肺炎と、SARS 治療中における続発性肺炎の2つの型が知られている。

○特徴

誘因：1次感染は流行地での患者との濃厚接触で、次いで医療従事者や家族、看護者の2次感染率が高くなっている。

症状：平均2～7日の潜伏期の後、急激な発熱、悪寒、筋肉痛、乾性咳嗽、めまい、喀痰、嘔吐、下痢などの初期症状で始まる。数日後に呼吸困難、低酸素血症、肺炎像が出現する。



○治療

- 有効な根治的治療法はまだ確立されておらず、対症療法が中心となる。
- 発症初期には SARS 以外の肺炎との鑑別が困難なので、一般的な細菌性肺炎を対象とした抗菌薬による治療を行うことになる。

○予後

- 発症率は不明であり、実際にどれだけの感染者がいるか明らかでないことから、正確な致死率を提示することは難しい。

【3】高病原性鳥インフルエンザ

○高病原性鳥インフルエンザウイルスが関与する肺炎

- 高病原性鳥インフルエンザは致死率の非常に高い疾患としてセンセーショナルに報じられた。
- ヒトからヒトへの感染を起こす新型インフルエンザの出現も危惧されているが、これらが関与する肺炎は、現時点では報告されていない。

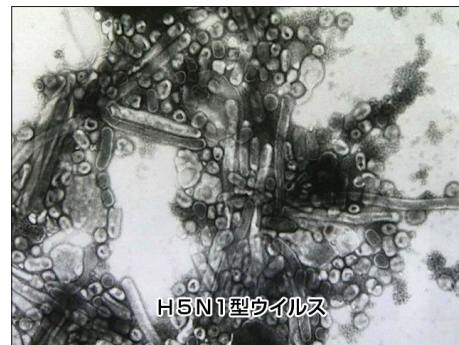
○特徴

頻度：日本ではまだ臨床例はない。

誘因：流行地での感染した鳥やその体液、あるいは患者との濃厚な接触により感染する。予防ワクチンは現在開発中である。

○診断

- H5N1型ウイルスに対する迅速診断キットの検出感度は36%程度と低いことが報告されており、注意が必要である。
- ウイルスの亜型の同定には、血液中の抗体測定、ウイルス分離、遺伝子検査が必要となる。



○治療

- H5N1型ウイルスはアマンタジン耐性であるため、日本をはじめ各国でオセルタミビルとザナミビルの備蓄が行われている。

【4】まとめ

- 高齢者におけるインフルエンザウイルス肺炎は、予後不良な例も多く、混合感染と併せて迅速かつ的確な診療が必要となる。
- 新興感染症の中で、SARS、高病原性鳥インフルエンザは世界的な大流行を予想する声もあり、対岸の火事とばかり思っではいけない。
- 拡散防止のためには、これらの感染をいち早く察知し、対応する準備が今後ますます必要となってくると思われる。